

養護教諭ができること

性的マイノリティの子どもが
自分らしくいられるために

静岡県には、県内の小中学校、特別支援学校などの養護教諭で構成され、養護教諭としての資質向上やレベルアップを目指す「静岡県養護教諭研究会」があります。

研究会には794人（平成30年7月現在の養護教諭が所属し、テーマに沿った調査研究や研修会の実施、研修収録である会誌を毎年発行したり、児童生徒の健康課題解決のための実践事例集も発行したりしています。

研究会を代表し、会長の増田真澄先生に、性的マイノリティの子どもへのサポートへの取り組みについて聞きました。

（國井良子）



夏季研修の様子

性的マイノリティの子どもへの 対応が求められている



増田真澄さん

磐田市立城山中学校 養護教諭
静岡県養護教諭研究会 会長

平成27年4月30日、文部科学省から「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」という通達が出ました。それ以降、現場での性的マイノリティの子どもへの対応が具体的になってきました。

もともと、養護教諭に求められることは多岐にわたっています。保健室の運営や保健管理、保健室に来室する児童生徒の怪我や体調不調時の対応、健康相談、加えて、保護者からの相談も受け、保護者と担任を「繋げる」役割などもあります。最近では13人に1人、クラスに2〜3人はいると言われる性的マイノリティの子どもへの対応も、求められています。今は存在が見えないが、もしかしたらこの中に性的マイノリティの子どもがいるかもしれない、ということを経験して、学校で適切な対応ができるように研修を行ったり情報収集をしたりしています。

昨年の夏、毎年実施している小中高交流研修会では、NPO法人静岡県男女共同参画センター交流会議と共催し、LGBTについて同法人理事・滝和子さんの進行で、5人の当事者とフォーラム形式で研修しました。この研修の内容を

会誌「たちばな60号」に掲載し、LGBTに関する知識を高めました。本年の静岡県養護教諭研究会夏季研修会には、岡山大学大学院保健学研究科教授・中塚幹也さんを招いて「LGBTの基礎知識と養護教諭ができること」という演題で、話を聴くことができました。会員からは、「養護教諭として正しい知識を持ち、よき理解者になりたい」「校内で研修できるような機会をつくりたい」等の感想がでました。地区によつては、すでに性的マイノリティの当事者に話を聞くといった研修を、独自に行っているところもあります。

養護教諭ができること

保健室は「安全基地」

子どもは教室以外に居場所があれば、安心して学校に來ることができます。悩みや不安が不登校に繋がるケースもあります。「この先生なら話してもいいかも」と子どもが思えるような養護教諭が、保健室にいることが大切です。廊下にLGBT関連のポスターを貼る、保健室に書籍をさりげなく置く、といった環境作りを心掛けています。

組織的な支援

LGBT、性的マイノリティに関する研修会を開き、理解を深めることはもちろん、そこで学んだことを養護教諭だけではなく、学校の職員と共有していく必要があります。組織として複数の職員で対応し、専門機関と連携できるようにしておくことも必要です。

子どもや保護者との信頼関係

養護教諭は保護者と担任を繋げる役割もあります。子ども本人はもちろん、

保護者との信頼関係を築き、学校生活での悩みや不安が軽減できるよう、支援方法を考えていきます。必要に応じて、スクールカウンセラーに繋ぐなどの対応も必要になってきます。子どもや保護者からのSOSがキャッチできるように、アンテナを高くしている必要性を感じています。

「性教育」から「セクシュアリティ教育」へ

今学校では、人権と多様性を尊重するセクシュアリティ教育が求められるようになってきました。性的マイノリティについて正しい知識を持ち、適切な支援ができるよう、それぞれの養護教諭が学んでいるところです。

生活しやすい環境作り

多目的トイレの設置など、どの子どもも生活しやすい環境作りのための情報提供を学校側にしていきます。従来の「男は青、女は赤」という色で性別を区別することを控えるなど、性の多様性を認め、性別は男女の二択だけではなく、性多様性を踏まえた支援をしていく必要があります。

保健室は相談できる場であり、子どもが悩みを安心して伝えられる身近な大人が、養護教諭でありたいと思います。そして、子どもが誰かに相談したいと思った時のために、理解している教員が増えることも重要です。

全ての子どもが自分に自信を持ち、「ここにいていい」と存在価値を認められるよう、ベテランも若手も含め養護教諭の職務に努めていきます。



LGBT会議

思いを伝える

新たなメディアと

性的マイノリティ

昨今、インターネットの普及が情報の発信者と受信者の関係を大きく変えた。情報発信はテレビや新聞だけでなく、ブログや動画サイトから行うこともできる。これまで一方的に情報を受容するだけであった多くの人が、情報発信者にもなることができるようになったのだ。

テレビのバラエティーで「オネエタレント」と呼ばれる人たちが活躍していたり、男性同士の恋模様を描いたドラマが話題になったりと、性的マイノリティに関する情報は日常の中に落とし込まれているが、彼らはどのようなきっかけから、何を発信しようとしているのだろうか。



ワイン酒場&Cafe 鷹匠ボナペチ!



中村泰介さん

ワイン酒場 & Café「鷹匠ボナペチ!」(静岡市)を経営。LGBT 啓発に関するイベントを定期的に開催する団体「BEBEC」代表。自身が性的マイノリティ当事者であり、YouTube や Twitter、Instagram といった SNS を通じて、様々な情報を発信している。

中村さん(右)とパートナー

「BEBEC」という団体を立ち上げた経緯について教えてください

中村…私自身は既に両親にカミングアウトをしており、同性パートナーと共に2世帯住宅で生活をしています。その家を開放し年に数回、当事者と非当事者の分け隔てないホームパーティーを開催していました。参加者同士が料理を楽しむ中で、性別及び性的指向等にとらわれず、自然と知らない者同士が繋がっていく様子を見て、人と人が繋がれる場を演出することが、自分のやりたいことなのだと気づきました。

一方で、パートナーと一人で飼っていた犬が亡くなり、パートナーがペットロスになってしまった時、一緒に暮らしている私の家族がパートナーを支えてくれました。たとえ法律上は「家族」だと認められていなくても、その空間の中では確かに「家族」でした。それに気づいた時、「私たちのような暮らし方(生き方)に共感してくれる当事者がいるのではないか」と思いました。

静岡にはこうしたモデルケースが少なく、当事者は様々な困難から、社会で認められるような家族像を抱くことが難しいです。私たちがそのモデルケースになることで静岡が当事者にとって暮らしやすい街になっていくのではないかと、というところからこの活動が始まりました。

どのようなイベントを行っているのですか

中村…BEBECでは、当事者に対して理解のある人が周りにいることを顕在化し、当事者自身のエンパワーメントを醸成することを目的としています。

季節に応じた立食パーティーや料理体験等を中心に、「おしゃれに優雅にそし

て楽しく」をモットーとしたイベントを開催しています。

活動の一環としてSNSを使うに至った経緯を教えてください

中村…SNSは情報を発信するツールとして必要不可欠なものだと考えています。LGBTという言葉にあまり触れたことのないような若い世代や、楽しいことなどにアンテナの高い人たちに向けて、「そういう人たちがいる」ということをまずはじめに知ってもらうために、YouTubeのような動画サイトを利用しています。

私は、テレビで活躍している性的マイノリティのタレントをととても面白いと思います。しかしながら、彼らが性的マイノリティの全てではありません。皆さんのすぐ隣にも普通にいるかもしれない。こうしたことを伝えたいと考えた際に、情報発信するツールとしてYouTubeやTwitterを自然と選択していました。

YouTubeではどのような動画を投稿しているのですか

中村…主に私たちの日常生活の中の旅ログを投稿しています。私たち当事者が好きな人と旅行に出かけ、楽しいことを共有し、普通の夫婦のように生活している二面を見てもらいたいと思いました。こうした姿をLGBTに関するあらゆる課題を意識していなかった人たちがいることで、一緒になって「自分だったらどうだろう」という風に考えてもらいたいです。

SNSに馴染みのない人たちがLGBTについて知る機会などはありますか

中村…現在、静岡にはLGBTに関する理解啓発及び自助活動などを目的に

した団体がいくつかあります。団体それぞれコンセプトがあり、主としている事業が異なります。

現在TVや新聞等従来の情報発信ツールにおいても、LGBTに関する理解を深めることを目的とした動きが始まっています。こうしたいろんな手法での情報発信を通じて、少しずつでも理解者が増えてくれたらと願っています。

今後の活動について教えてください

中村…10月以降、BEBECが一層社会的な団体に成長するため、助成金を利用したプロジェクトを始める予定です。助成金申請の通過が前提とはなりませんが、LGBTに関する映画鑑賞会を行った後の懇親会や、ランニングイベントへの参加などを検討しています。堅苦しくなく、気軽に楽しめるものを企画していきたいと思っています。

私はパートナーを含め、パートナーの家族までを幸せにしたいと思っています。まだまだ立ち止まってはいただけません。この「鷹匠ボナペチ!」というフレンチレストランも始めて半年ですが、夢は大きく、もっともっと頑張っていきたいです。

中村さんの顔は活気に満ちているように見えた。日本の社会という荒波は厳しいが、そこに立ち向かっていかなければ何も変えられない。立ち向かう仲間を増やすために、インターネットの技術は大きな役割を担っているのだと感じた。そこから発信される思いが、誰かを動かし、いつか社会を動かす力になるだろう。その大役のほんの一握りを、この記事が担ってくれることを期待する。

(白木菜々美)

もっとつながろう

静岡県内で活動する LGBT 関連団体を紹介します。

東 部

特定非営利活動法人メリメロ (会員数13 人／正社員)

どんな団体ですか

主に中高年期の性的マイノリティの抱える生きづらさ、また将来への不安などを軽減させるべく、一人ひとりの生きるスキルをつける学びあいの場として発足しました。

どんな活動をしていますか

上述のようにおひとりさま暮らしが多い私たちにとって、ひとりでも、子どもの世代に頼らなくても力強く生きていく学びあいの場として、現在隔月で「おひとりさまの料理教室」を行っています。

何も特別なおもてなしの料理ではない、日々の膳にのぼる惣菜を3品程度、料理研究家の先生に教わり、作り、そしてみんなで食べて交流しています。

仲間になりたいと思ったら

わたしたちの趣旨に賛同する方でしたら歓迎します。

こちらまでお便りください

<https://www.facebook.com/melimelo.npo/>

団体の情報

Facebook <https://www.facebook.com/melimelo.npo/>

ツイッター <https://twitter.com/gannoji>

メッセージ

みなさまへ

おもに静岡県東部（沼津市など）で活動しているNPO法人メリメロ代表の岩口です。わたしたちは主に中高年期の世代が感じる、漠然とした将来への不安などを軽減するべく2015年に立ち上がりました。今の生きづらい世の中、変えていくのも一つの方法ですが、いち生活者としてカシコク生きていくスキルを身につけ、好く生きる方法を模索しています。その一環として料理教室で学んだり交流したりしています。ぜひ問い合わせてください。

中 部

GID しずおか (正会員20 人、例会参加10 人)

どんな団体ですか

性同一性障害（性別違和）の当事者と支援者による当事者のQOLを向上させるための団体です。

どんな活動をしていますか

毎月例会を開いています。奇数月は、第4水曜日、偶数月は第4土曜日、午後7時から。場所は、静岡市の女性会館アイセル21です。また、毎年7月にGID しずおかフォーラムを開催し、当事者の人権を守り、最新の知識を啓発するために、様々な分野から講師を招き講演会を開催しています。

11月にはGID しずおかセミナーを県東部、もしくは県西部で行っています。テーマは、例年「性同一性障害について考える」となっています。

中 部

LGBT しずおか研究会 (会員数45 人)

どんな団体ですか

「セクシュアリティ」をキーワードに、みんなで話す団体です。

LGBT 当事者・非当事者は関係なく、様々なことを「否定せず」に語り合うことを目的としています。

どんな活動をしていますか

会員のための定例会（1回/月）、講演会や研修会の講師、その他大学や行政との連携事業（主に啓発）。

仲間になりたいと思ったら

HPの問い合わせフォームから連絡ください。

団体の情報

HP「LGBT しずおか研究会」[検索](#)、facebook

メッセージ

セクシュアリティへの関心は、自分探しに繋がります。そこではLGBT 当事者・非当事者は関係なく、価値観のあり方によってはセクシュアリティを超えた共感さえ生まれることも。

まずは「誰かのため」ではなく「自分のため」に、セクシュアリティを見つめてみませんか。

仲間になりたいと思ったら

基本的に、例会への参加者から会員希望者を募っています。入会は、毎年の総会の後に開催されるフォーラム時に受け付けています。

団体の情報

HP「GID しずおか」[検索](#)

メッセージ

GID 当事者、家族、関係者の皆さん、性別適合手術が健康保険適用になり、戸籍上の性別変更がさらに身近なものになってきました。GID しずおかでは、医療機関等への働きかけを行って、県内での手術が可能になるよう努力していきます。現在、悩んでいる皆さん、どうぞ遠慮なく例会に顔を出してください。

西部

浜松TG（トランスジェンダー）研究会 （会員15人ほど）

どんな団体ですか

浜松に住む TG（トランスジェンダー）とその仲間たちの集まりです。性別を超えて生きる生活者たちの「今日より明日が生きやすい社会」になるように、地元浜松から具体的に変わっていきたいと思い活動している団体です。

どんな活動をしていますか

「みんなの居場所」開催。浜松で TG と LGB たちが気軽に集まれる場所です。当事者だけではなく「ちょっと聞いてみたいことがあるんだけどー」って仲間も大歓迎。2 か月に 1 度、浜松市中央区の公共施設で開催。参加費無料。※詳細は問い合わせください。困ったことや相談したいこと、社会を変えるチャンス!があれば、そのつど集合!他に、一般向けや学校関係者向けに講座をします。

仲間になりたいと思ったら

hamatoraken@gmail.com へ連絡ください。

団体の情報

Facebook 浜松 TG 研究会
Twitter 「浜松 TG 研究会」@ hama_toraken

メッセージ

性別のことで悶々としているそこのあなた! その悩みは、あなただけのものじゃないかもしれません。ココには、いろんな得意分野や経験を持った人たちがいます。ひとりで悩むならみんなで悩もう。まずは友達になりませんか?

西部

にじいろ安場in 浜松 （会員20人）

どんな団体ですか

静岡県浜松市を中心に「セクシュアルマイノリティ全員が暮らしやすい社会の実現」を目指して、2001 年より活動をしているセクシュアルマイノリティ支援団体です。

どんな活動をしていますか

「ブログでの情報提供」「勉強会」「集い」などを不定期に行っています。

仲間になりたいと思ったら

募集中。メールで問い合わせください。
annba.info@gmail.com

団体の情報

ブログ「にじいろ安場」[検索](#)
Twitter「にじいろ安場 in 浜松」@ annbainfo

メッセージ

多様な性に理解のある方でしたら、セクシュアリティに関係なくなたでも参加できます。セクシュアルマイノリティ当事者の方はもちろん、その家族、友人、支援者の方からのメールをお待ちしています。

編集員藁科が
選びました

本棚を もっとカラフルに!



ジョージと秘密のメリッサ
アレックス・ジーノ作、島村浩子訳、偕成社

10 歳のトランスジェンダー (MTF) の子どもの葛藤と、周囲に少しずつ受け入れられていく様子を書いた人間ドラマ。2015 年アメリカ初版、2016 年邦訳初版。児童文学において LGBT をテーマにした作品の邦訳はまだまだ数が少ない中で、ついに出版!と図書館員や児童文学ファンをうならせた本作は、一組の親子の成長記としても読みごたえがあり、思春期の子を育てている親の心をも揺さぶる力作です。ハラハラドキドキのまますたまであつという間に読んでしまいます。



先生と親のための LGBT ガイド:
もしあなたがカミングアウトされたら
遠藤まめた著、合同出版

身近な人のために LGBT について知りたいと思った時にあつめの 1 冊。当事者の子どもとかかわっている大人にぜひ読んでほしい、Q&A 方式の初心者向けガイドです。理解を深めたいあなたには、遠藤さんの最新作「オレは絶対にワタシじゃない トランスジェンダー逆襲の記」(はるか書房)も。2 冊あわせて読むとまさに『LGBT ビギナー入門セット』?! どちらも超おススメ!



くまのトーマスはおんなのこ、
ジェンダーとゆうじょうに
についてのやさしいおはなし
ジェシカ・ウォルトン著、
ドゥーガル・マクファソン画、
かわむら あさこ訳、ポット出版

大事なのは、あなたが好きなように生きて、幸せでいてくれること。いちばん大切なことをシンプルに教えてくれる絵本です。子どもと一緒に大人も楽しみたいです。

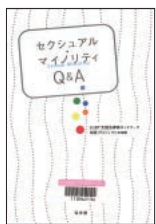
子どもの読み物を通じて、多様な生き方について理解を深めよう
一人でも多くの子供たちと、彼らの育ちにかかわる大人に読んでほしいおすすめ作品を紹介! いずれも、小中学校の学校図書館や保健室に置いてほしい作品ばかりです。本コーナーで紹介している書籍は、静岡県男女共同参画センターあざれあ2階の図書室で閲覧、貸し出しができます。どうぞご利用ください。
ちなみに、これらの作品はあなたの近くの近くの図書館には配架されていますか? もし見つからなければ、図書館にリクエストをしてみましょう。

著者の遠藤まめたさんから「ねつとわあく」読者へメッセージが届きました!

ずっと一緒にいた親友。家族。職場の同僚。あなたが気がついていないだけで LGBT と呼ばれる人たちがきつというはず。「そんな人まわりにいない」とか「おかしい」とか決めつけることをやめたら、多様性の豊かさに気づくと思います。少なからず、人を愛することや自分らしく生きることを意味について考え直す機会にもなるでしょう。まずは知ることから。



あざれあ図書室にある おすすめの本を紹介します！



『セクシュアル・マイノリティQ&A』
(LGBT支援法律家ネットワーク出版プロジェクト
//編著 弘文堂 2016年)

セクシュアル・マイノリティが会おうかもしれないあらゆる法律トラブルについて、具体的な解決策を示します。基礎知識から当事者のニーズやトラブルの対処法まで、幅広く知ることができます。



『LGBTの子どもに寄り添うための本』
(ダニエル・オウエンズ＝リード 白桃書房 2016年)

LGBTの子どもにとって、家族へのカミングアウトは人生の一大事。カミングアウトされたときに、家族が直面するいろいろな問題に対処していく方法をQ&Aで解説するガイドブックです。



『弟の夫(全4巻)』
(田亀源五郎 双葉社 2015～2017年)

突然亡くなった弟の結婚相手がカナダ人で男性だった…。LGBTを身近なストーリーとして描いただけでなく、シングルファザーやステップファミリーなど、さまざまな家族の形を描いたコミックです。

利用案内

貸出：図書5冊、ビデオ・DVD2本(2週間)

※貸出カードが必要です。現住所、生年月日を確認できる身分証明書を
お持ちのうえ、カウンターにてお申込みください。

開室時間：平日9:00～18:00、土日祝9:00～17:00

休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日

TEL:054-255-8763 FAX:054-255-8759

バックナンバーのご案内

「ねっとわあく」のバックナンバーは、静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で電子BOOKまたはPDFデータで閲覧できます。冊子送付希望の方は、NPO 法人あざれあ交流会議(TEL:054-250-8147)へお問い合わせください。在庫がない号もあります。ご了承ください。



ねっとわあく

2018/10/31 Vol.71

「ねっとわあく」は年1～2回発行します。県内の男女共同参画センター、市町役場、図書館などの公共施設で配布しています。「ねっとわあく」のバックナンバーは、あざれあ図書室や静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で閲覧できます。
あざれあナビ <http://www.azareana-navi.jp/>

編集後記



写真 後列左から 小川真知子 勝村諒功 白木菜々美

前列左から 薬科可奈 国井良子 赤堀三代治

●自分らしく生きることの大切さと難しさを改めて考えた今号。セクシュアリティに関する新しい価値観や考え方が、世の中に浸透していくにはまだ少し時間がかかりそうです。それでも今号が、みなさんの「何かのきっかけ」に繋がっていけば、とてもうれしいです。

(編集長 国井良子)

●「マイノリティと防災」について考える機会を得ました。3人の実践的な関係者にインタビューをしましたが、平時の取組みの大切さをあらためて教えられました。マジョリティの一人として平時に何ができるのか、自問しています。

(赤堀三代治)

●知らないことばかりで、つらくて逃げ出しそうになったことがありました。しかし様々な方々の支えもあり、何とか自分の思いを形にすることができました。周りの方々の支えがあるだけで自分の状況ってガラッと変わります。読んでくださった方もそのことにもう一度気付いていただけたらと思います。

(勝村諒功)

●取材をして、伺った内容を文字として形にするということを初めてしました。もちろん、うまくいかないことばかりでしたが、これを機に自分自身を改めて見つめ直してみようと思いました。LGBTというテーマは、ずっと関心を持っていたことだったので、取り組めてよかったです。

(白木菜々美)

●LADY GAGAの“Born This Way.”を繰り返し聴きながら書き上げた今号。子どもを見守り続け、救いを求められたら寄り添うこと。怜さんご両親に子育てのヒントをたくさんもらった。早くコメントをくれた遠藤まめたさんの著作を、子どもに関わる全ての方に勧めたい。より良い未来を次世代に残すため、私たちにできることは山ほどある。

(薬科可奈)

発行日/平成30年10月31日

企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085

編集長/国井良子

編集員/赤堀三代治/小川真知子/

勝村諒功/白木菜々美/薬科可奈

印刷/星光社印刷株式会社

